

屋外にいるとき



住宅街

- ブロック塀や石塀は、強い揺れで倒れる危険があります。
- 電柱や自動販売機も倒れてくる可能性があります。
- 屋根瓦や二階建て以上の住宅のベランダのエアコンの室外機、ガーデニング用のプランターなどが落下してくることがあります。
- 耐震性能の低い住宅が倒壊して瓦礫や窓ガラスが道路内に散乱する可能性もあります。



繁華街

- 中高層ビルが建ち並ぶオフィス街や繁華街では、窓ガラスや外壁、看板などが落下してくる危険性があります。
- オフィスビルの窓ガラスが割れて落下すると、時速40～60kmで広範囲に拡散します。
- ビルの外壁のタイル、看板などが剥がれ落ちることもあります。
- 鞆などで頭を保護し、できるだけ建物から離れましょう。
- 繁華街では、店の看板やネオンサインなどの落下・転倒物が増えます。



車の運転中

- **揺れを感じたら…**
 - ①急ブレーキは禁物です。徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車します。
 - ②エンジンを切り、揺れがおさまるまでは車外に出ず、カーラジオから情報を入手します。
 - ③避難の必要がある場合は、車のキーはつけたままにし、ドアをロックしないで、窓を閉めます。
 - ④連絡先が見えるところに書き、車検証などの貴重品を持ち、徒歩で避難します。
- **高速道路では…**
 - 高速走行しているのでハザードランプを点灯させ、前後の車に注意を喚起します。
 - 高速道路では約1kmごとに非常口が設けられており、ここから徒歩で地上に脱出することができます。

電車などの車内

- 緊急停車に備え、ケガをしないように姿勢を低くしたり、手すりやつり革をしっかり握りましょう。
- 強い揺れを感知すると電車は緊急停車します。
- 座席に座っている場合には、低い姿勢をとって頭部を鞆などで保護し、立っている場合には手すりやつり革をしっかり握って転倒しないようにしましょう。
- 停車後は、乗務員の指示に従いましょう。

山・丘陵地

- 落石に注意し、急傾斜地など危険な場所から遠ざかりましょう。
- 登山やハイキングで山にいる時に強い揺れに襲われた場合には、まず落石から身を守りましょう。
- 地震で地盤がゆるみ、崩れやすくなっている可能性がありますので、ガケや急傾斜地など危険な場所には近づかないようにしましょう。



海岸にいるとき

津波から避難するには

津波から身を守るために

- 海岸で強い揺れに襲われたら、一番恐ろしいのは津波です。避難の指示や勧告を待つことなく、安全な高台や避難地を目指しましょう。
- 近くに高台がない場合は、3階建て以上の建物を目指し、3階より上へ上がります。
- 津波は繰り返し襲って来て、第一波の後にさらに高い波が来ることもあります。いったん波が引いても絶対に戻ってはいけません。
- 避難標識が整備されている場合には避難する際の目安になります。
- 海水浴中の場合は、監視員やライフセーバーがいる海水浴場では指示に従って避難しましょう。



重要

内陸部に住んでいる人も海での避難方法を知り、
どんな場所においても冷静に対応できるようにしておきましょう。

いざというときに役立つ!

避難の手がかりはコレだ!

身近にない標識だからこそ、
いざというときに役立ちます。
海岸地域にある標識を紹介します!



【津波避難ビル】

津波に対しての安全な避難場所(津波避難ビル)の情報を表示。



【津波避難場所】

津波に対しての安全な避難場所(高台)の情報を表示。



【津波注意】

地震が起きた場合、津波が来襲する危険のある地域を表示。

我が家は大丈夫？

知って
いましたか？

地震によるケガの半数近くが

家具等の転倒・落下が原因

個人でしっかり備えをすることで
発災後も自宅で生活することが出来ます。

避難所生活はプライバシーの問題などもあり、
長引くほどストレスも溜まります。

安全対策 屋内

阪神・淡路大震災では、建物自体は大丈夫でも、多くの家で家具が転倒、落下し、家具の下敷きになったり、割れたガラスなどでケガをした被害が多数でした。家具の転倒・落下により、ケガをするだけでなく、倒れた家具により部屋の出入り口や廊下がふさがれ、避難することが困難になります。日ごろから家具の固定をしたり、配置を考えて地震に備えましょう。

1 家具の配置を工夫する

- 寝室や子供・高齢者の部屋、出入口付近にはできるだけ背の高い家具は置かないようにしましょう。
- 就寝位置を家具から離したり、転倒しにくい側方とするといった方法も考えられます。
- 重量のある家電製品はできるだけ低い位置に置くようにしましょう。



2 家具の転倒を防止

- 建物が無事でも、家具などが転倒すると、下敷きになってケガをしたり、避難経路を塞いだりしてしまいます。
- タンスや棚はL型金具などで壁や柱に固定しましょう。
- 引き出しや観音開きの扉にはストッパーなどを取り付け、中身が飛び出さないようにしておきましょう。
- 扉がガラスの場合はガラス飛散防止フィルムを貼っておきましょう。
- 壁や家具の種類などによって適した方法が異なります。自分の家や家具などにあった方法を選びましょう。



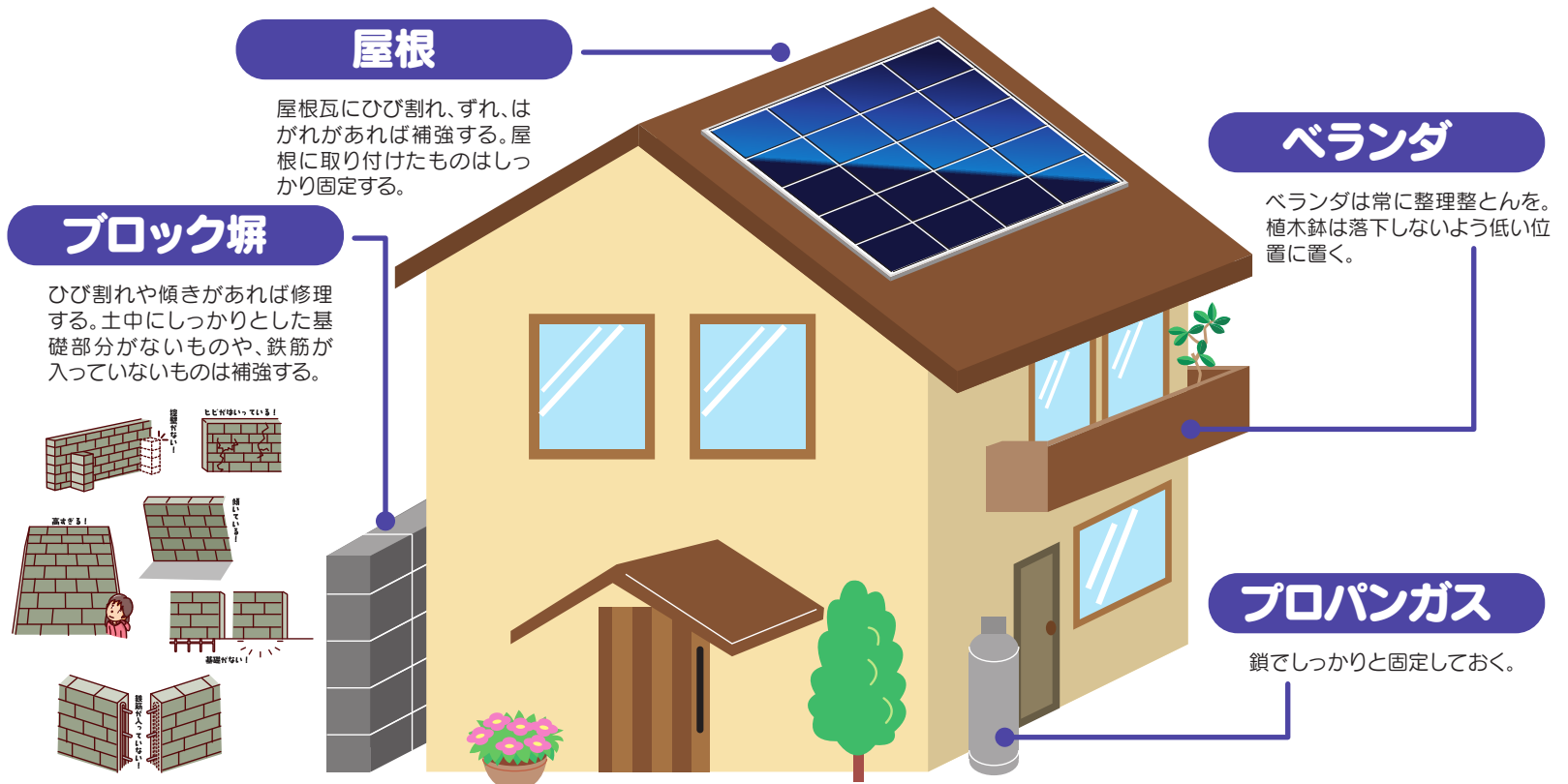
3 家電などの転倒・落下防止

- 家電製品が転倒したり、照明器具が落下したりすることも大変危険です。
- 台にテレビやパソコンを載せている場合は、金具や耐震シートなどで本体と台を固定し、L型金具などで棧や柱に固定しておきましょう。
- 吊り下げ式の照明器具は複数のチェーンを使い数箇所を天井に止め、固定しましょう。
- 蛍光灯や電球は、割れても飛び散りにくい飛散防止が施されたものに取り替えましょう。



安全対策 屋外

●一戸建ての場合



地震対策
みよし市
での取り組み

無料耐震診断

昭和56年5月31日以前着工の木造住宅を対象にご自宅の耐震診断を無料で行います。

耐震改修補助

耐震診断の結果によって耐震補修工事を実施する場合、市から補助があります。

詳しくは **TEL.0561-32-8023** (担当:都市計画課) までお問い合わせください

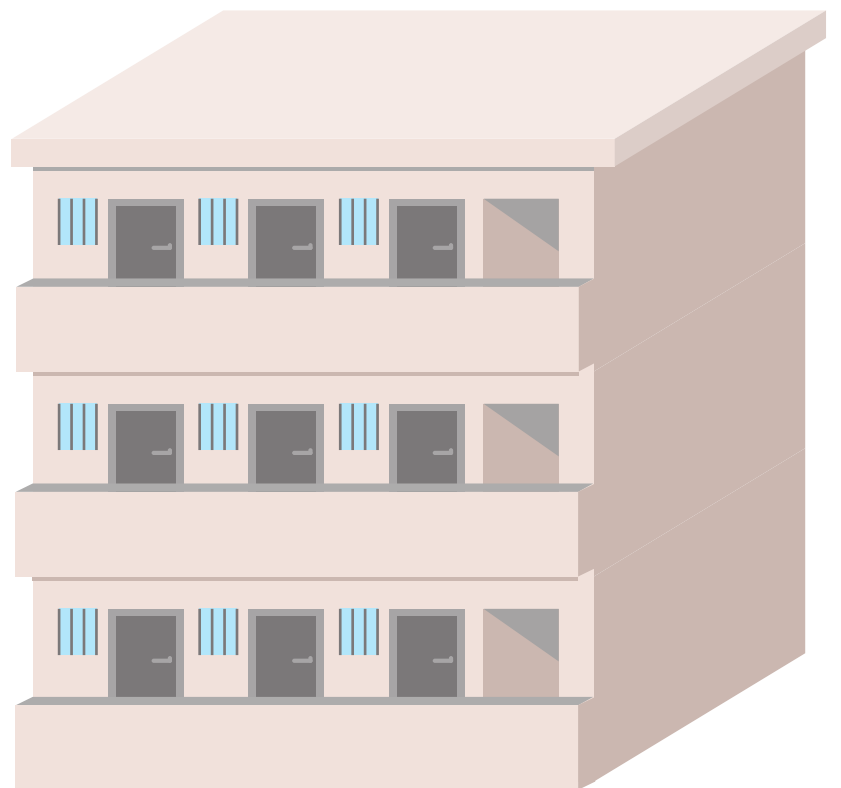
●集合住宅の場合

通路・非常階段の整理

非常扉、非常階段の場所は必ず確認しておきます。災害時、通路や非常階段に物があふれていると避難できません。避難経路の確保も含めて緊急時に通行できるようにしておきましょう。

エレベーターの利用

エレベーターに乗っていたら、各階のボタンをすべて押して停止した階で直ちに降りてください。万が一、エレベーター内に閉じ込められてしまったら、非常ボタン、非常電話で救助を求めましょう。無理に開けようとするのは危険なのでやめましょう。また、避難する時はエレベーターを利用せずに階段で避難するようにしましょう。



高層マンションなどでの注意事項

❗ 揺れが大きくなることへの対策

高層階になればなるほど建物の揺れが大きくなる場合があります。揺れに備えて家具類の転倒防止対策は必ず行いましょう。

❗ 食べ物等はどれくらい備蓄しておけばいいの？

エレベーターが停止すると物資の持ち運びが困難になるので多目に備蓄するよう心がけましょう。